

黒豚生産施設が完成、観光連携で活性化 霧島市の農事組合法人

霧島市の農事組合法人・霧島高原純粋黒豚牧場(平邦範代表理事)が、国の「農山漁村活性化プロジェクト支援事業」を活用し同市霧島田口に建設していた、黒豚の一貫生産施設が完成した。見学用の放牧場も設置し、単なる肉豚出荷だけではなく、観光業界と連携する体制を取る。

「きりしまブランド」の黒豚を柱に、地域活性化につなげる取り組み。2009年度から2年間の事業で、総事業費約2億6200万円。4割を国の交付金、残りは融資で賅った。

敷地面積6600平方メートル。交配・妊娠、分娩、子豚、肥育と用途別に分かれた豚舎6棟、堆肥舎が並ぶ。年間約2200頭の黒豚出荷を計画。入り口部分には観光客が見学するための放牧場も設けた。

同法人によると、農山漁村活性化プロジェクト支援事業で、豚舎建設が対象になるのは初めて。黒豚生産施設を整備することで、地域の飲食店や宿泊施設での流通を活発にし、都市住民との交流を促す目的が認められた。豚舎は全て木造平屋。「認証かごしま材」を使い、地元公務店が請け負った。

23日には養豚、観光業者や行政関係者を集め、同市牧園のホテルで落成式を予定。平代表理事は「チーム霧島力を集め、素材、資源をうまく連携させ霧島地区を元気にしたい」と話している。

平成23年02月10日 南日本新聞

桐野様

霧島の中村です。

見学に訪れる観光客は皆無です。近辺に病院、焼酎工場があり、これから大きな問題となりそうです。

悪臭がひどいという苦情が出始めています。

現地に行きました。大きな換気扇から悪臭がばら撒かれています。